「宿泊FD・SDセミナー」

―大学教育の今日的課題を学ぶ―

首都大学東京管理部長
小澤　達郎

5月29日、今回で第2回目となる「宿泊FD・SDセミナー」が八王子セミナーハウスで開催された。新規採用の教員と事務職員（内部登用者を含む。）とを対象にFD・SD合同で開催されるユニークなセミナーで、教員と事務職員相互のコミュニケーションを図る貴重な機会ともなっている。

大学改革の必要性が叫ばれる今日において、首都大学東京においても様々な取組が始まっている。これらの改革を順調に進め、実りのあるものとするためには、教員と事務職員とが、いわば車の両輪として、連携し、協力していかなければならないことは、火を見るより明らかである。大学が置かれた社会的状況や今日的課題について共通認識をもち、協力体制を整える一助として、このセミナーが活用されることを期待したい。

今回のセミナーは、「大学教育の今日的課題―共通教育の必要性―」と題して、大学教育のあり方に造詣が深く、かつて国際基督教大学学長として同大学の改革に辣腕を振るわれた絹川正吉先生に講演していただいたほか、学内講師により、資料にあるとおり充実した講演が行われた。

18歳人口の減少、情報化社会の進展、経済のグローバル化など、日本社会の急速な変化には目を見張るものがある。この中にあって、大学は、その存在意義を問い直し、新たな役割を模索している。学士課程教育を通じて培う「学士力」とは何か、教育の「質の保証」のあり方、経済社会の要請を大学はどう受け止めるのか、等々、さまざまな課題が提起され、議論が交わされている。セミナーで行われた各講演は、これらの問題を我々大学教職員が考える糸口を与えてくれたと思う。受講者は、メモを取るなどして、熱心に聞いていた。また、講演後の懇親会では、互いに親睦を深めている様子であった。

中央教育審議会等は、大学改革の方向性を矢継ぎ早に示し、国、公、私立を問わず多くの大学で改革の試みがなされている。ただし、大学には、それぞれの建学の精神、異なる歴史と伝統がある。首都大学東京では、何ができるか、何をなすべきか、自らの特質を踏まえ、足元を見つめながら考えていかなければならない。今後は、このセミナーのほか、職員が大学教育の課題を継続的に学び、考える機会を提供していきたいと考えている。

末文ながら、セミナーには、学長をはじめ、学部長・学系長がお越しになり、新人教職員を励まされていた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。